



# 帝京短期大学

TJC 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム

2025（令和7）年度 自己点検・評価報告書

2026（令和8）年3月

帝京短期大学

ICT委員会

## TJC 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラムの評価項目

### 1. プログラムの概要に関する事項

- 1-1 プログラム自己点検・評価の実施体制.....3
- 1-2 対象とするプログラムの概要.....3

### 2. 学内からの視点

- 2-1 プログラムの履修・修得状況.....4
- 2-2 学修成果.....6
- 2-3 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度等.....7
- 2-4 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度.....11
- 2-5 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況.....11

### 3. 学外からの視点

- 3-1 プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価.....11
- 3-2 産業界からの視点を含めた教育プログラムの内容・手法等への意見.....12

### 4. 改善に向けた取組

- 4-1 「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること.....12
- 4-2 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること.....13

- 5. まとめ .....13

## 1. プログラムの概要に関する事項

### 1-1 プログラム、自己点検・評価の実施体制

- 本学では、2025（令和7）年度に、生活科学専攻、食物栄養専攻、こども教育専攻（通信教育課程含む）、臨床検査専攻、柔道整復専攻の1年次の全学生を対象とした「TJC 数理・データサイエンス・AI リテラシー教育プログラム」をスタートさせた。
- 本プログラムの組織は、「帝京短期大学 ICT 委員会規程」に基づき、ICT 委員会に設置している。プログラム運営は、ICT 委員の教職員で構成されるワーキンググループが担っている。
- 本プログラムの自己点検・評価については、ICT 委員会がその年度の後期授業終了後に毎年実施をする。

#### <根拠資料>

- 2025 年度 シラバス
- 帝京短期大学 ICT 委員会規程

### 1-2 対象とするプログラムの概要

- 本プログラムは、本プログラムを構成する科目\*1で構成され、この科目の修得を修了要件としている。
- 下記科目は、数理・データサイエンス・AI 強化拠点コンソーシアムにおいて作成された「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に示されている「導入」「基礎」「心得」のすべての必須項目を満たす内容を学ぶ科目となっている。
- 学生が1年間で無理なく受講できるよう、前期・後期の半期ごとの開講としている。
- すべての学生が履修する卒業必修科目として開講され、すべての専攻において卒業要件科目となっている。

\*1 本プログラムを構成する科目

専攻	授業科目	配当年次／開講期間	単位数	プログラムでの位置づけ
生活科学専攻 食物栄養専攻 こども教育専攻 こども教育専攻 (通信教育課程)	情報基礎演習Ⅰ	Ⅰ年／前期 (夏期Ⅰ期及び週末Ⅰ期)	Ⅰ	必修
	情報基礎演習Ⅱ	Ⅰ年／後期 (夏期Ⅳ期及び週末Ⅰ期)	Ⅰ	
臨床検査専攻	情報科学Ⅰ	Ⅰ年／前期	Ⅰ	
	情報科学Ⅱ	Ⅰ年／後期	Ⅰ	
	医療統計学	Ⅰ年／前期	2	
柔道整復専攻 柔道整復専攻(二部)	コンピュータ演習Ⅰ	Ⅰ年／前期	Ⅰ	
	コンピュータ演習Ⅱ	Ⅰ年／後期	Ⅰ	

<根拠資料>

- 2025年度 シラバス
- 2025年度 学生便覧(学科目単位配当表)

## 2.学内からの視点

### 2-1 プログラムの履修・修得状況

- 本プログラムの対象科目は全てⅠ年次卒業必修科目であるため、単位認定者を除き履修率は100%である。Ⅰ年次に修得できなかった学生に対しては、原則として次年度に再履修するように履修指導が行われており、在学期間の初期に修了要件を満たすように本プログラムは運営されている。
- Ⅰ年次終了時での未修了者の大半は定期試験等における成績不良が原因ではなく、授業開始後早い段階で授業への出席をしなくなった学生であり、継続して出席し、学習を行った学生はほとんど修了している。
- WEBポータルサイトにて学生自身による出欠記録の閲覧を可能にし、出席が芳しくない学生に対しては、担任が指導やアドバイス、面談等を行っている。さらに保護者に対しては、授業回数が15回科目の場合には欠席3回目、8回科目の場合には欠席1回目になった時点で状況通知を行うことで、履修継続をサポートしている。

2025（令和7）年度の履修・修得実績（再履修者、単位認定者を除く）

科目名	配当年次／開講期間	専攻	履修者数	修得者数	修得率
情報基礎演習Ⅰ	Ⅰ年／前期 (夏期Ⅰ期及び週末Ⅰ期)	生活科学専攻	27名	24名	89%
		食物栄養専攻	10名	10名	100%
		こども教育専攻	5名	5名	100%
		こども教育専攻 (通信教育課程)	3名	2名	67%
情報基礎演習Ⅱ	Ⅰ年／後期 (夏期Ⅳ期及び週末Ⅰ期)	生活科学専攻	25名	24名	96%
		食物栄養専攻	9名	9名	100%
		こども教育専攻	5名	4名	80%
		こども教育専攻 (通信教育課程)	2名	2名	100%
情報科学Ⅰ	Ⅰ年／前期	臨床検査専攻	21名	21名	100%
情報科学Ⅱ	Ⅰ年／後期		22名	22名	100%
医療統計学	Ⅰ年／前期		23名	23名	100%
コンピュータ演習Ⅰ	Ⅰ年／前期	柔道整復専攻	13名	13名	100%
		柔道整復専攻（二部）			
コンピュータ演習Ⅱ	Ⅰ年／後期	柔道整復専攻	12名	11名	92%
		柔道整復専攻（二部）			

<根拠資料>

- 2025年度 シラバス
- 2025年度 学生便覧（学科目単位配当表）
- 履修人数一覧表
- 受講者名簿
- 成績通知書
- 採点簿

## 2-2 学修成果

○各科目では、学修成果に対する到達目標が設定されており、各科目において筆記試験、レポート、小テスト、授業態度、授業内課題・提出物等でその到達度を確認している。また本学における履修規程の第15条において、評点および評価基準は以下のように定められているため、当該科目に合格すれば、学修成果に対する到達目標を達成していると判断できる。また、前項の修得状況において、全専攻の修得率が80%を上回っているため、専攻によるばらつきはほぼないと考えられる。

判定	評価	評点	GP	評価内容
合格	S	100～90点	4.0	特に優れた成績（学習目標をほぼ完全に達成している）
	A	89～80点	3.0	優れた成績（学習目標を相応に達成している）
	B	79～70点	2.0	良好な成績（学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある）
	C	69～60点	1.0	合格と認められる成績（学習目標の最低限は満たしている）
不合格	不可	59点以下	0.0	不合格（学習目標の最低限を満たしていない）
	欠席	—	0.0	再試験欠席又は、単位認定試験欠席
	無資格	—	0.0	全授業数の3分の1を超える欠席の場合

○2025（令和7）年度受講者の成績状況は下記のとおりである。

評価	S	A	B	C	不可	欠席	無資格
情報基礎演習Ⅰ	12名	10名	11名	8名	0名	0名	4名
情報基礎演習Ⅱ	12名	13名	5名	9名	0名	0名	2名
情報科学Ⅰ	2名	4名	5名	10名	0名	0名	0名
情報科学Ⅱ	5名	6名	6名	5名	0名	0名	0名
医療統計学	9名	5名	4名	5名	0名	0名	0名
コンピュータ演習Ⅰ	8名	3名	2名	0名	0名	0名	0名
コンピュータ演習Ⅱ	7名	3名	1名	0名	0名	0名	1名

○学期末に実施する、学生を対象としたデータサイエンスプログラムアンケートの回答を分析することにより、授業に対する学生の取り組み状況や理解度等を一定程度把握することができる。また、これらの結果を担当教員およびICT委員会で共有・検討することで、本プログラムの評価・改善を行う。

<根拠資料>

- 履修規程
- 2025 データサイエンスプログラムアンケート
- 成績通知書

## 2-3 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度等

データサイエンスプログラムアンケートを実施し、学生の理解度等を把握している。<sup>\*2</sup> アンケート集計結果

本アンケート回答項目の肯定的な回答（上位 2 選択肢）について、集計を行った（例：「とても意欲的だった」および「やや意欲的だった」）。<sup>\*3</sup> コース別アンケート集計結果

アンケート対象者 76 名に対して、回答者数は 67 名であった。アンケート対象者とは、受講者のうち通学課程では 11 月 27 日時点、通信課程では 12 月 22 日時点で在籍している学生である。

○授業内容の理解度については、全体として高評価が得られている。授業内容の理解に関する設問（設問 4・13・21）では、肯定的な回答がそれぞれ 85%、82%、78%となり、専攻間で大きな差は見られなかった。このことから、多くの学生は授業内容を理解できていると解釈でき、授業の難易度は適切であると考えられる。

一方で設問 9 および設問 10 において、約 4 割の学生が授業内容量や進度について「多い」「早い」と感じており、さらに専攻間で差が認められたことから、専攻特性に応じた授業設計の見直しや理解度確認が必要であることが示唆された。

○コンピュータリテラシー・データサイエンス理解に関する設問（設問 14・15）では、全体として一定の理解度が確認されたものの、こども教育専攻においては他専攻と比較して肯定的な回答の割合が低く、学習内容と将来の職業との結び付きが十分に実感されていない可能性が示された。今後は教育現場や民間企業等での具体的な活用例の提示や、学習目的の可視化を重視する必要がある。

一方、柔道整復専攻は各設問において肯定的な回答がそれぞれ 91%と高水準にあり、さらに設問 20 においては、全学生から「この授業で身につけた知識や技術を自分の将来に活かせる」との回答が得られたことから、やはり将来像との関連が必要であることがうかがわれる。

この項目は情報系授業の核となる内容であるため、今後、更なる内容の理解度の向上と利活用力を身に付けさせる工夫が必要である。

○データの扱い方、活用技術の習得に関する設問（設問 16・17）では、設問 16 で 76%、設問 17 で 87%の学生が肯定的な回答をしており、技術の習得度は高水準であった。

特に柔道整復専攻では、設問 17 で肯定的な評価が 100%であった。また、ほぼ 100%の学生が「新しい知識や技術が身についた」と回答しており（設問 6）、データの扱い方、活用技術を十分に習得できていると解釈できる。

○学生の授業に対する意欲、興味に関する設問（設問 3・18）では、設問 3 で 85%、設問 18 で 73%、総合的満足度に関する設問（設問 22）では、78%の学生が肯定的に回答したことから、

学生の満足度は高く、データサイエンス、AI への興味が増したと思われる。

特に柔道整復専攻では、設問 3、18、22 の全ての設問において全体値を上回っているほか、設問 22 では肯定的評価が 100% という結果であり、学生の情報系授業に対する意識の高さがうかがわれる。

また、食物栄養専攻でも、設問 22 において肯定的な評価が 90% と満足度は十分であったと考えられる。さらに本専攻は授業外学習（予習・復習）の実施率が他専攻よりも高いことから（設問 8）、学習意欲の高さが学修成果に良好な影響を与えていると考えられる。

○授業内容の理解、技術の習得度、学生の意欲・興味について、受講者全体の集計結果から見ると概ね高評価であるが、専攻ごとの回答結果を見ると、数値差がとても大きいといえる。

本プログラムは全体として高い教育効果を有しているものの、専攻ごとの学習背景や将来像に応じた授業設計の工夫が今後の改善課題である。

\*2 アンケート集計結果 Q1～Q24（Q1、Q2、Q7、Q24 は除く）

Q1. (通学) 所属している専攻を教えてください

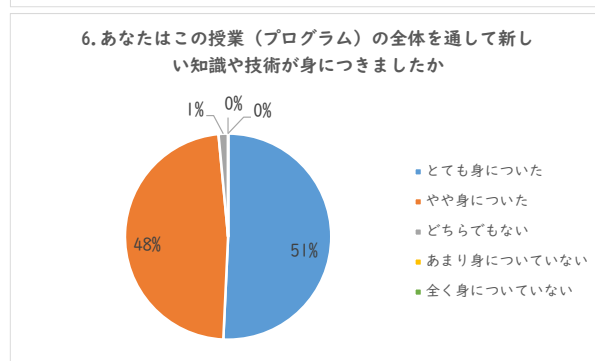
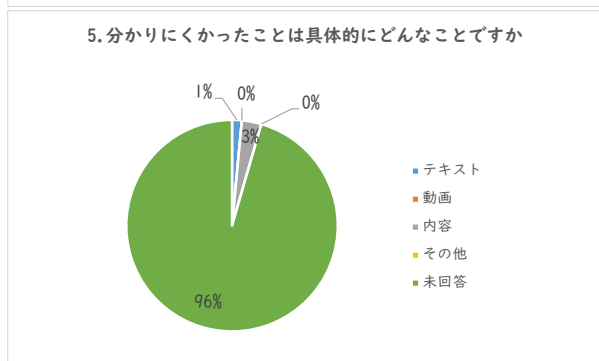
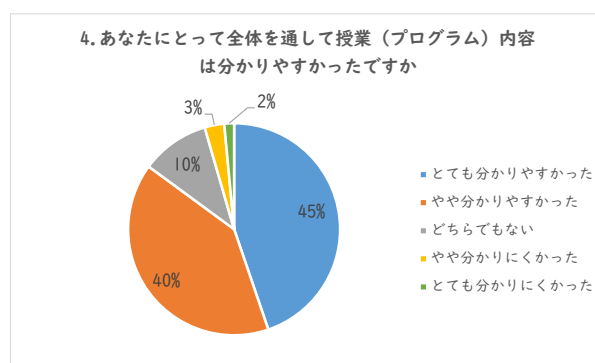
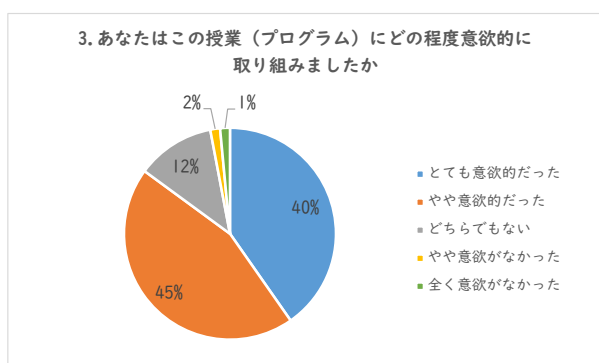
(通信) 学年を教えてください

Q2. (通学) 学年を教えてください

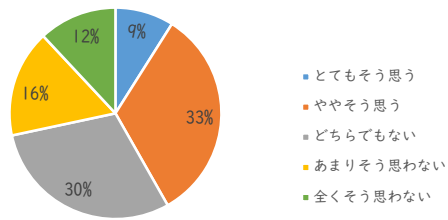
(通信) スクーリング受講期

Q7. (Q6 の設問に対して) 「あまり身につけていない」「全く身につけていない」を選択した方は理由を教えてください

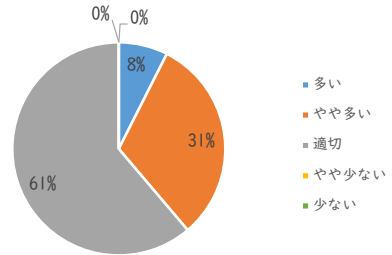
Q24. 授業に関して自由に記述してください



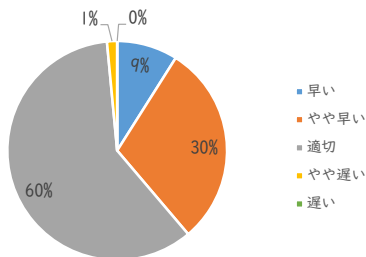
8. あなたはこの授業（プログラム）を受けるにあたって  
授業外学習（予習・復習）をして臨みましたか



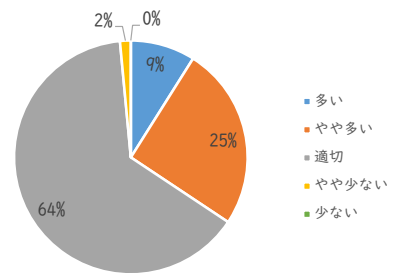
9. あなたにとってこの授業（プログラム）の毎回の内容  
量は適切でしたか



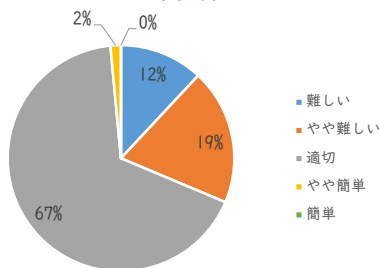
10. あなたにとってこの授業（プログラム）の進度（授業  
を進める速さ）は適切でしたか



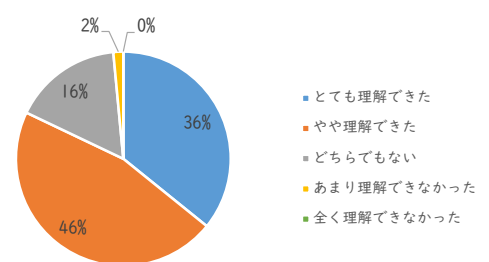
11. あなたにとって課題の量は適切でしたか



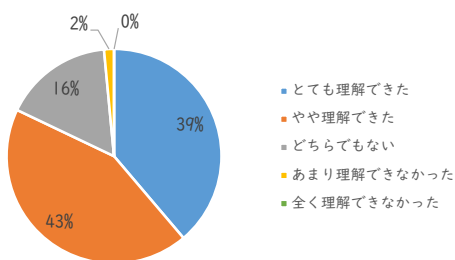
12. あなたにとってこの授業（プログラム）の教材は適切  
でしたか



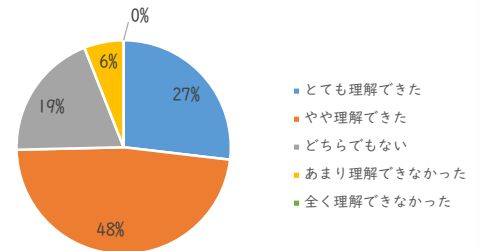
13. あなたは全体を通じてこの授業（プログラム）を学ぶ  
楽しさ、学ぶことの意義を理解できましたか



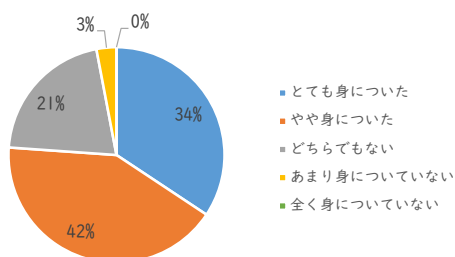
14. あなたはこの授業（プログラム）を通じてコンピュー  
タリテラシーについて理解できましたか



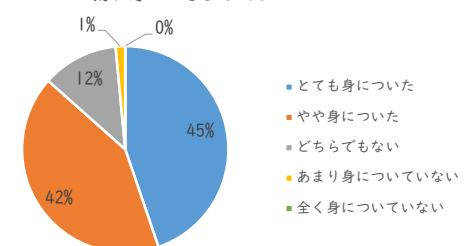
15. あなたはこの授業（プログラム）を通じてデータサイ  
エンスについて理解できましたか

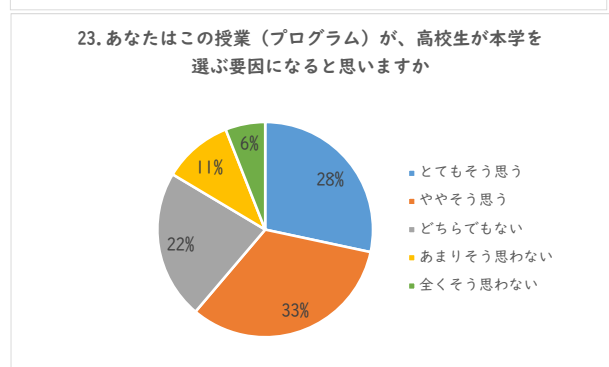
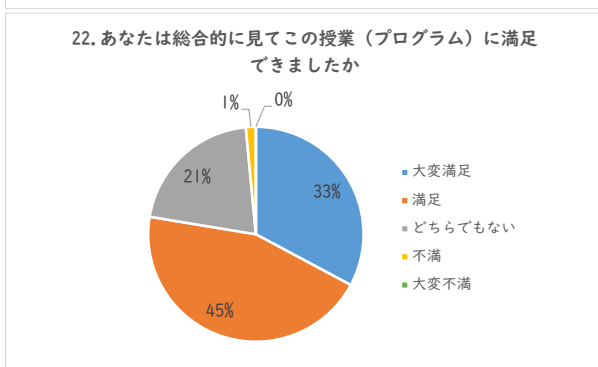
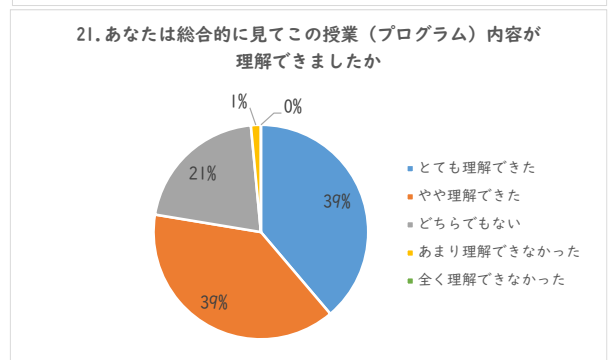
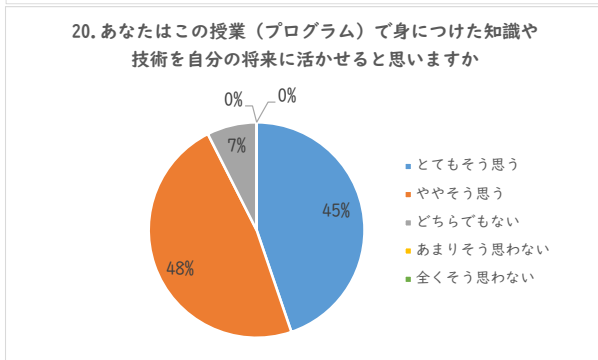
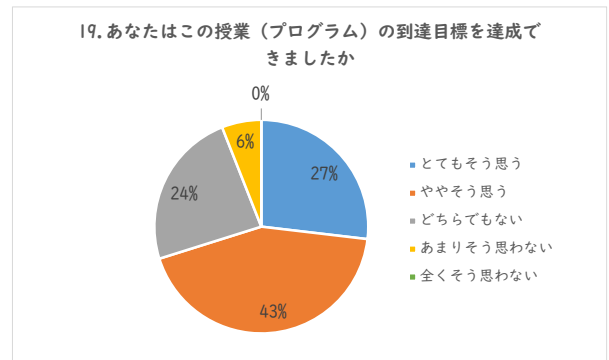
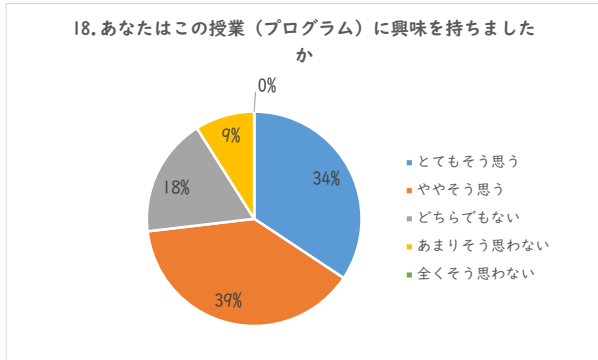


16. あなたはこの授業（プログラム）を通じてデータの扱  
い方や分析の手法が身についたと思いますか



17. あなたはこの授業（プログラム）を通じてOfficeのア  
プリケーション（Word、Excel、PowerPoint等）の活用技  
術が身につきましたか





\*3 コース別アンケート集計結果（上位2選択肢）

	設問3	設問4	設問6	設問13	設問14	設問15	設問16	設問17	設問18	設問19	設問20	設問21	設問22	設問23
全体	85%	85%	99%	82%	82%	75%	76%	87%	73%	70%	93%	78%	78%	61%
生活科学専攻 生活文化コース	83%	66%	100%	83%	83%	83%	33%	50%	66%	50%	83%	67%	67%	66%
生活科学専攻 看護教諭コース	95%	95%	100%	94%	83%	67%	78%	94%	78%	72%	100%	83%	72%	66%
食物栄養専攻 栄養士コース	78%	89%	100%	100%	100%	78%	89%	89%	78%	78%	89%	89%	89%	67%
こども教育専攻 こども教育コース	60%	80%	80%	60%	40%	20%	60%	40%	60%	60%	80%	40%	40%	40%
こども教育専攻（通信教育課程）	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%
臨床検査専攻 臨床検査コース	82%	76%	100%	59%	76%	82%	76%	94%	64%	59%	88%	65%	76%	53%
柔道整復専攻 柔道整復コース（昼間部）	91%	91%	100%	91%	91%	91%	91%	100%	82%	91%	100%	100%	100%	73%

<根拠資料>

●2025 データサイエンスプログラムアンケート

## 2-4 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

○本プログラムを構成する「情報基礎演習Ⅰ・情報基礎演習Ⅱ」「情報科学Ⅰ・情報科学Ⅱ・医療統計学」「コンピュータ演習Ⅰ・コンピュータ演習Ⅱ」は卒業必修科目であるため、本学に入学すると専攻ごとにすべての学生が受講するため、後輩等への履修推奨の積極的な取り組みは実施していない。

また、設問 23「本プログラムが高校生が本学を選ぶ要因になると思うか」では、61%が肯定的に回答した一方で、「そう思わない」「どちらでもない」と回答した学生も 40%程存在した。この結果から、本プログラムの教育的価値は学生自身には一定程度伝わってはいるものの、その魅力が十分に言語化・可視化されていない可能性が示唆される。

今後は学生が実感している学修成果や成長実感を積極的に可視化し、高校生や保護者に分かりやすく伝える広報的工夫を行うことが、本プログラムの社会的評価向上に寄与すると考えられる。

<根拠資料>

- 2025 年度 シラバス
- 2025 年度 学生便覧（学科目単位配当表）

## 2-5 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

○本プログラムにかかる科目については全学Ⅰ年次で卒業必修科目として開講しているため、履修者数、履修率向上に向けた計画は実施していない。

<根拠資料>

- 2025 年度 シラバス
- 2025 年度 学生便覧（学科目単位配当表）

## 3.学外からの視点

### 3-1 プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

○本プログラムは 2025（令和 7）年度から開始したため、現在本プログラムを修了した卒業生はいない。2026（令和 8）年度以降の卒業生調査において、当該科目を修了した卒業生の進路先や活躍状況等の動向を評価していく予定である。

○また、本プログラムの修了生が卒業する 2026（令和 8）年度以降からは、企業等への調査などをもとに本プログラムの改善に努める予定である。

### 3-2 産業界からの視点を含めた教育プログラムの内容・手法等への意見

○本学の卒業生が就職した企業を対象としてアンケート調査を実施しているが、本学卒業生に対する情報リテラシー及び数量的スキルの習得状況を調査するまでにはいたっていない。今後アンケート項目を見直し、本プログラムの改善に活用していく。

<根拠資料>

●2025 年度 帝京短期大学「大学教育の成果に関するアンケート調査」

## 4.改善に向けた取組

### 4-1 「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

○授業担当教員は、学生の反応や理解度に応じた説明方法の工夫、日頃接することが多いと考えられる事例を中心に、それらに関連する数理・データサイエンス・AI を用いた授業展開を行っている。身近な事例を使い能動的にデータ分析を行うことにより、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解させるように努めている。

○本プログラムでは、教材や取り上げる内容について ICT 委員会の教員も含めて継続的に見直しを行い、可能な範囲で最新の話題やトレンドに沿った題材を取り入れ、学生からのアンケート結果も参考に内容に調整を加える。これにより、社会状況等の変化により、学生にとって身近な題材がデータサイエンスの視点を通してどのように捉えられるかを、体験的に学ぶことができる授業を目指す。

○授業内容に可能な限り実社会における応用例を示すよう工夫しており、学生は本プログラムをデータサイエンスの基礎として修得していることから、社会に出たときにそれらを用いて自身の業務等にすぐに応用できるようなカリキュラムとする。

○これらの取組は、データサイエンスプログラムアンケート設問 13 の高い肯定的評価にも反映されており、授業を通して「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を実感できている学生が多数存在することから、教育効果の高い授業科目であると評価できる。今後も、学生の生活や将来像と結びついた題材設定、能動的学習の継続的導入により、学修意欲のさらなる向上を図る。<sup>\*2</sup> アンケート集計結果

<根拠資料>

●2025 データサイエンスプログラムアンケート

4-2 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

○本プログラムの内容については、学生を対象にアンケート調査やヒアリングを実施し、その結果を踏まえて教育内容の水準の維持・向上に役立てている。さらにより分かりやすい授業を展開していくために、ICT委員会と担当教員で意見交換をする場を設け、授業内容の水準を維持しつつ、より分かりやすい授業とするための工夫として、説明順序の再構成、補足資料の工夫、理解度確認の方法について検討を進めている。このように定期的に、学生や社会に求められる事項と授業内容のすり合わせを行い、教育方法の開発・改善に努めている。今後は企業や卒業生を対象としたアンケートの実施を検討していく。

○数理・データサイエンス・AI教育の実施に向けて、学内の教育資源を有効に活用している。32・34講義室の備付タブレットや、コンピュータ演習室（42教室）のOffice搭載Windows11のデスクトップパソコン、図書館のラーニングcommons、学生支援室、アクティブラーニング教室（44教室）等を活用し、数理・データサイエンス・AI教育を実施している。

○アンケート結果においても、授業の分かりやすさについては高評価である一方、内容量や進度に関しては改善の余地が示されていることから、今後は以下の点を重点的に改善していく。

- ・専攻特性に応じた進度調整
- ・理解度の低い層へのフォロー体制の強化
- ・補助教材や説明方法の多様化
- ・授業内外での理解度確認機会の増加

これらの取組をICT委員会および担当教員間で共有し、継続的な授業改善サイクルを構築していく。

<根拠資料>

●2025 データサイエンスプログラムアンケート

5.まとめ

本プログラムは、学生アンケートおよび担当教員と意見交換の結果から、全体として高い教育効果と学生満足度を有していることが確認できた。一方で、専攻間の学習背景や将来像の違いに起因する理解度や負荷感の差も明らかとなり、今後は専攻特性に配慮した授業設計と支援体制の充実が重要な課題である。今後も、学生アンケート、教員間の意見交換、外部評価等を活用しながら、継続的な自己点検・評価と改善を行い、本プログラムの質保証と発展に努めていく。